

様式第5号

出張調査報告書

令和3年1月18日

松伏町議会議長 増田 等 様

会派名 未来クラブ

代表者名 松岡 高志



下記のとおり、先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	令和2年12月18日
2 視 察 地	埼玉県秩父郡横瀬町大字芦ヶ久保字道谷戸道の駅「果樹公園あしがくぼ」
3 視 察 目 的	(1) 道の駅「果樹公園あしがくぼ」の概要 (2) 道の駅設置への町の取り組み (3) 道の駅の経営状況と町との関係
4 視 察 者 氏 名	松岡 高志 長谷川 真也 増田 秀雄
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

## 令和2年度松伏町議会未来クラブ視察

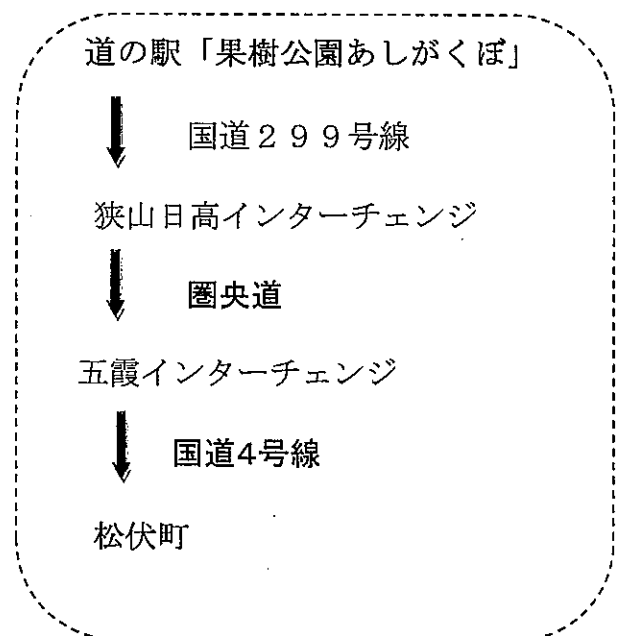
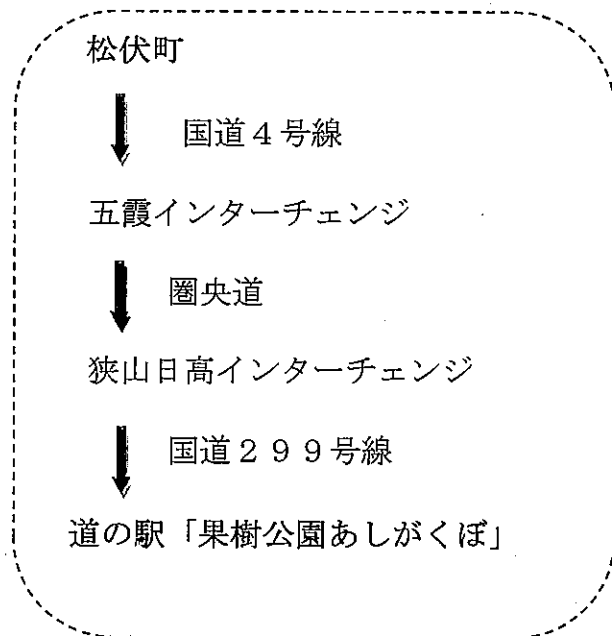
視察先 道の駅「果樹公園あしがくぼ」

期 日 2020年12月18日(金)

### 行程

行き(自家用車) 100km

帰り(自家用車) 100km



### 日程

- 8:30 松伏町 集合出発
- 10:50 道の駅「果樹公園あしがくぼ」到着
- 11:00~12:20 道の駅の振興交流施設にて道の駅概要説明、質疑応答
- 12:30~13:00 道の駅の食堂にて昼食
- 13:00~14:00 道の駅の農産物加工場、直売所等の各施設の見学
- 14:10 道の駅出発
- 16:30 松伏町 到着 解散

## 令和2年度 松伏町議会 未来クラブ 視察結果

視察先 埼玉県秩父郡横瀬町 道の駅「果樹公園あしがくぼ」

### 1. 横瀬町の概要

(1)面積 49.49 平方キロメートル

(2)人口 8,167 人

(3)世帯数 3,338 世帯

#### (4)概要

埼玉県の西部、秩父地方の南東部にあり都心から 70 km圏内に位置している。気候は、盆地であるため寒暖の差が比較的大きいものの、四季を通じて概ね穏やかである。

主要道路及び鉄道は、国道 299 号と西武鉄道秩父線が東西に走り、町内には横瀬駅と芦ヶ久保駅の 2 駅が設置され、通勤・通学の足として、また秩父地方の東の玄関口としての機能を果たしている。

産業は、農林業が中心で、とりわけ果樹を主体とする観光農業が活発である。また、豊かな森林資源と雄大な自然景観、札所をはじめとする歴史的な文化遺産も多数有しており、首都近郊の観光地としても知られている。

### 2. 道の駅「果樹公園あしがくぼ」の整備事業概要

#### (1)経緯

横瀬町では、少子高齢化により著しく過疎化傾向にある芦ヶ久保地区に、山林のもつ魅力を活かし、地域活性化と雇用の創設を図るとともに、県西部と秩父を結ぶ唯一の幹線道路である一般国道 299 号を利用する観光客やドライバーへの利便を図るための道の駅が整備された。

道の駅「果樹公園あしがくぼ」は、平成 11 年度より計画をはじめ、平成 13 年度から平成 16 年度にかけて、農林水産業の新山村振興等農林漁業特別対策事業の補助を受け、地場農林産物等の直売所や食堂、観光や交通の情報提供コーナー、そば打ち等の体験交流施設を備えた振興交流施設と農産物加工場及び横瀬川の清流に親しめる親水交流広場を整備した。

また、当道の駅は特に環境を重視し、高度処理した汚水をトイレの洗浄水として再利用、県産木材を 90%以上使用、暖房には現在は効率が悪く使用していないが、木質バイオマスエネルギー利用のペレットストーブを導入している。なお、誰にも使いやすいユニバーサルデザインを採用している。

#### (2)事業費内訳

新山村振興等農林漁業特別対策事業

4 億 7630 万円

木のある生活空間づくり事業	1059万5千円
町費単独整備事業	1億3290万円
総事業費	6億1979万5千円

(3)事業実施年度 平成12年度～平成16年度

- 平成12年度 用地調査、計画樹立
- 平成13年度 全体計画設計、用地測量、物件調査  
農産物加工場測量設計、造成工事、新築工事、設備備品購入
- 平成14年度 用地買収、物件移転補償  
総合污水排水処理施設設計、新設工事  
振興交流施設設計、周辺安全施設工事  
親水交流広場概略設計
- 平成15年度 振興交流施設新設工事、設備備品購入  
親水交流広場詳細設計、整備工事、植栽工事  
情報提供施設整備、観光情報DVD作成  
芦ヶ久保橋高欄改修工事、電線等地下埋設工事
- 平成16年度 多目的休憩施設等設計、新設工事、設備備品購入

(4)整備概要

①新山村振興等農林漁業特別対策事業

(1) 農産物加工場

木造平屋建1棟 308㎡

パン、ジャム、味噌、漬物加工室、設備備品一式

(2) 総合污水排水処理施設

型式FRP製、凝集剤添加膜分離活性汚泥方式、

処理人員250人、処理水BOD5ppm

(3) 振興交流施設

木造平屋建1棟 611㎡

A棟(直売場、食堂、情報提供コーナー)

B棟(ギャラリー)

C棟(体験交流室、シャワールーム、事務室)

厨房設備一式、家具及び事務機一式)

(4) 親水交流広場

広場整備工2,000㎡、植栽工4,800㎡(ヤマザクラ、スモモ、ヤマツツジ、アジサイ、シャガ等)

- (5) 情報提供システム  
61 インチプラズマディスプレイ、情報提供装置一式
- (6) 町紹介ビデオ等  
町の四季の魅力 DVD 一式
- (7) 多目的休憩施設等
  - 多目的施設休憩施設 1 棟 132.57 m<sup>2</sup>
  - 陶芸用窯置場兼倉庫 1 棟 59.62 m<sup>2</sup>
  - 麺類厨房 1 棟 10.69 m<sup>2</sup>
- ② 木のある生活空間づくり事業
  - (1) 芦ヶ久保橋高欄改修  
木製デザイン高欄 L=61m
  - (2) 木製バイオマスエネルギー利用事業  
ペレットストーブ 2 台
- ③ 町費単独整備事業
  - (1) 用地購入費  
用地面積 4,524 m<sup>2</sup>
  - (2) 測量設計等  
全体計画等
  - (3) 農産物加工場設備品等  
冷房設備等
  - (4) 電線等地下埋設  
電線等地下埋設 L=77m (内橋梁添架 28m)
  - (5) 親水階段整備  
階段工一式 河床整正工 265 m<sup>2</sup>

### 3. 道の駅「果樹公園あしがくぼ」の概要（主な質問事項）

#### ①経営状況について

道の駅の売り上げは当初からまずまずの売り上げがあった。直近の売り上げは4億円で小さなスーパーマーケットぐらいある。開業時より売り上げは伸びている。特に、去年は暖冬でできなかったが、観光名物の1月2月の「氷柱」事業による売り上げ効果は大きい。秩父祭りや紅葉の時期の来場者も多い。

開設時、地場農家は農産物を出さなかった。今は農家からは委託料をもらい農産物を出してもらっている。リピーターが多く、農産物を求める人が多い。朝と昼納品であり、町外の人がターゲットである。品ぞろえを意識して、農協からも地場産を入れている。これから最盛期となるイチゴを買い求める方が多く期待できる。西武駅においてある土産物も扱っている。カフェは直営であり営業収入はそのまま売り上げになっている。

来場者はバイクが多いのも特徴であり、国道の交通量は売り上げに大きく関連している。シニアも多い。今道の駅の認知度が高まっていることを感じる。河川敷での手ぶらでバーベキューなども企画し、功を奏している。また、売り場面積は小さい中で売るのが良しとしていたが、多くの人に来るのでもう少し広くてもと考えている。

#### ②町会計負担について

収益は黒字、4年前は1500万円、80万円の配当を受けている。開業当初から町からの補填はない。運営は第三セクターである「有限会社果樹公園あしがくぼ」社長は町長である。株は町80%、観光協会1%、農協1%、果樹組合18%所有している。従業員は60名（社員6名）である。基金が1200万円あり施設修理・備品費に充当。利用料（建物と駐車場代）として2000万円/年あり、起債の償還を1億円している。12月の売上は土日90万円、平均40万円から50万円10月は多く、土日120万円平均すると40万円である。

### 4 所感

横瀬町は人口も少なく財政規模の小さい中、町にとってはかなりの投資となった道の駅ではあるが、開設以来黒字経営を維持している。計画段階においては、当初多くの反対意見があったようである。最終的には町長が「後はやり方である」と説得したとのことであった。議会においても「大利根の道の駅」視察など、可能な限り各地の道の駅に寄って研究したとのことである。

道の駅で何を売るか。今は定着して黒字経営に寄与しているパン工場、そば打ち、たらし焼きなど試行錯誤をして開設前にとことん考えたようである。設備としては車利用者用のコインシャワー設置、公園は親水性を持たせたのがよかったとのことであった。整備事業費において、駐車場は土地のかさ上げで使えるよ

うにし、ダムの浚渫工事も安くできたとのことである。

横瀬町HP・町長のコラムから「道の駅果樹公園あしがくぼが好調です。平成28年度の決算では、オープン以来はじめて総売上額が4億円を突破、平成27年度に記録した過去最高をあっさり更新しました。町に対して賃料も支払ったうえで、しっかりと利益も確保、財務体質も健全、もちろん雇用面での貢献も大きく、まさに町にとっての「孝行息子」になっています。好調の要因は、いろいろありますが、あしがくぼ氷柱の来客増、同ライトアップに合わせた営業時間の延長効果、紅茶ソフトクリームのヒット、平成28年春に実施した駐車場のライン引き直しによる駐車台数増等があげられると思います。」と述べられている。

横瀬町の令和元年度決算一般会計の財務書類に道の駅果樹公園あしがくぼの施設の修繕等に充当するための基金があり1291万円積み立てている。また、連結財務書類によると第3セクターの「有限会社道の駅果樹公園あしがくぼ」の現金預金は1億2278万3千円である。驚くべき孝行息子である。

道の駅は、ただ施設をつくれれば集客や地元製品の販売拡大につながるという現状ではない。それぞれの施設が地域特性を十分に認識し、この施設でなければ提供できないというコンセプトが重要である。その上で競争原理のもと経営努力という厳しい状況があることを認識しなければならない。

松伏町でも道の駅建設に向けて議論が高まっている。計画では横瀬町と同じ「公設民営・指定管理者」の手法を検討し進めているが、全国にあるような「公設民営」のスタイルありきの進め方ではなく、横瀬町の“孝行息子”に育てた、経営手腕を大いに参考にして進めていただきたい。

そして、道の駅は今年度から第3ステージとなり新たなコンセプトでの位置づけを国が求めている。「地域防災計画に位置づけられた道の駅・広域的な防災拠点となる道の駅」「地方創生・観光を加速する拠点となる道の駅」などである。新たなステージにおいて「道の駅地域ナンバーワン」を目指すというような明確なテーマを掲げ、全国に類のない魅力的な施設にするという気概を持って計画を進めることが重要ではないかと感じた。